※令和４年度以降入学生用

学校番号 311

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	ソルフェージュ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	コードで弾けるピアノ伴奏法						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

■保育系、音楽系の専門学校、短期大学、大学進学者向けの、音楽の基礎能力トレーニング（楽典、リズム練習、童謡の歌唱、視唱、視奏、聴音）を行います。
■学習の到達度は、実技テスト、筆記テスト、ワークシート、授業への取組みで評価します。
■ソルフェージュの授業では、「音」に静かにじっくりと耳を傾けることが大切です。そのことで、音程を正しく聴き取ることができる様になり、ソルフェージュの能力が向上します。
■高等学校卒業後、保育系、音楽系の進路に進む際に、ソルフェージュの授業で学習したことが基礎力となり、新しい進路先での学習にスムーズに入っていけるよう、架け橋になることをめざしています。

2　学習の到達目標

音楽に関する専門的な学習を通して、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、音楽文化 の発展に寄与する意欲を育てる。音楽を形づくっている要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をする ための基礎的な能力を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫を生かした音楽表現をするため、歌唱、器楽の技能を身に付け、音楽を通じて、メッセージを伝えている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもち、音楽の良さ美しさを味わっている。	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	読譜に必要な知識を身に付けよう①	【楽典】【視奏】 音部記号、五線の名称、音名、音符、音階、休符、小節、反復記号、鍵盤図(学習内容により、キーボードも使用する)	a:音楽の基礎的な理論を理解し、知識を身に付けている。 b:音楽の基礎的な知識を曲中、各要素がどのように用いられているか判断する。 c:音楽の理論に関心を持ち、主体的に、楽典の学習に取り組もうとしている。	ワークシート 筆記テスト	観察	観察
	リズムを身体で感じよう	【リズムソルフェージュ】 音符と休符、シンコペーションを理解し、リズムを読み取り、身体で表現する。	a:音楽表現をするために必要な、リズムの技能を身に付けている。 b:音符・リズムを知覚し、それらの働きを感受しながら、身体で音楽表現している。 c:リズムに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	演奏	ワークシート	観察
	短い曲をドレミで歌って弾いてみよう	【新曲視唱・視奏】 音符と休符、音の高さを理解し、音程つけて歌う・演奏する。	a:音楽表現をするために必要な、視唱の技能を身に付けている。 b:音符・リズム・音程を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現している。 c:新曲視唱に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	実技テスト	観察	観察

※令和４年度以降入学生用

	アンサンブルを楽しもう。	・鍵盤楽器、ドラム、歌唱など、楽器を使用し、アンサンブルしよう。	a:１学期の学習を理解し、表現したいことを伝えるとための歌唱や器楽の技能を身に付けている。 b:音楽が生み出す雰囲気や特質を感受しながらどのように演奏するか、表現意図をもっている。 c:楽器の音色を生かした音楽表現するために必要な器楽の技能を身に持ち味を生かして演奏する学習を主体的に取り組んでいる。	発表会	観察	観察 振り返りレポート
２学期	読譜に必要な知識を身に付けよう②	【楽典】 コード表示の基礎 調性 基本の三和音	a:音楽の基礎的な理論を理解し、知識を身に付けている。 b:音楽の基礎的な知識を曲中、各要素がどのように用いられているか判断する。 c:音楽の理論に関心を持ち、主体的に、楽典の学習に取り組もうとしている。	ワークシート 筆記テスト	観察	観察
	コード奏法を身に付けよう。	コードネームによる三和音の伴奏付けを学習する。 「ちょうちょう」 「きらきら星」など	a:音楽の基礎的な理論を理解し、表現したいことを伝えるための技法を身に付けている。 b:音楽の基礎的な知識を曲中、各要素がどのように用いられているか判断する。 c:　音楽の理論に関心を持ち、主体的に、楽典の学習に取り組もうとしている。	ワークシート 実技テスト	観察	観察
	曲の雰囲気に合わせ、伴奏を変えよう。	唱歌・童謡など、 三和音を、さまざまな 伴奏型で演奏する。	a:表現したいことを伝えるためのさまざまな伴奏型の技能を身に付けている。 b:リズムや音楽を形づくっている要素などの特徴を生かしながら伴奏を創意工夫している c：楽曲に関心を持ち、主体的に伴奏の学習に取り組もうとしている。	実技テスト	ワークシート	観察

※令和４年度以降入学生用

2学期	弾き歌いに挑戦しよう。	伴奏を両手で弾き、クリスマスの曲を歌唱する。	a:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 b:音楽が生み出す雰囲気や特質を感受しながら、どのように演奏するか、表現意図をもっている。 c:イメージを持ってクリスマスの曲を歌い、伴奏を演奏することに主体的に取り組んでいる。	実技 テスト	観察	観察
3学期	それぞれの得意分野を生かして、音楽発表会をしよう	【発表会】 ピアノ、キーボード、鉄琴、木琴、ドラム、歌唱等学校にある楽器を使用し、発表を行う。	a:楽器の音色を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能(読譜、リズム、奏法、呼吸法、運指)を身に付けている。 b:音楽が生み出す雰囲気や特質を感受しながら、どのように演奏するか、表現意図をもっている。 c:自分の得意分野を生かして楽器を選択し、グループ発表に向けての練習および発表会に、主体的に取り組んでいる。	発表会	観察	観察 振り返り レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度